

2021年度 千里山くじら保育園 自己評価

自己評価表（職員用）

第1 園の理念、基本方針

評 価 項 目	肯定
園の保育理念（保育目標）や基本方針を読んだことがありますか。	100%
園の保育理念（保育目標）や基本方針を理解していますか。	

第2 園の運営管理

評 価 項 目	肯定
園における自分自身の役割や責任の範囲などを理解していますか。	89%
吹田市個人情報保護条例を知っていますか。	
個人情報の保護や守秘義務に関して理解していますか。	
職員会議などに参加し、その会議の内容について理解していますか。	

第3 保育の内容

評 価 項 目	肯定
子どもの発育や発達の状態、家庭での食事、睡眠などの状態について保護者から情報を得るようにしていますか。	94%
登園時、子どもの健康観察（機嫌、顔色など）を行っていますか。	
保育中、子どもの様子（機嫌や食欲など）の把握していますか。	
一人ひとりの子どもの生理的欲求（食欲や睡眠など）が満たされるよう配慮していますか。	
登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声を掛けたりしていますか。	
子どもとの温かなやり取りやスキンシップを心がけていますか。	
子どもが、いつでも安心して休息できる雰囲気づくりを心がけていますか。	
子ども一人ひとりに分かりやすく温かな言葉で、おだやかに話しかけていますか。	
一人ひとりの子どもが、伸び伸びと遊べるよう見守っていますか。	
いろいろな遊びの中で、全身を使って体を動かすことができるよう配慮していますか。	
戸外（公園や広場など）でのいろいろな遊びを意欲的に楽しむことができる機会を設けていますか。	
いろいろな活動に親しみ、保育者や友達と楽しんで遊ぶことができるよう工夫していますか。	
衣類の着脱や排泄などを自分でできるよう、子どもの発達に応じて、丁寧に優しく援助していますか。	
いろいろな遊びや活動の中で、子どもが自分なりに考えて行動できるよう配慮していますか。	
子どもが、自分でできることは自分でしようとする意欲や姿勢を十分に見守っていますか。	
子どもが、自分でできたという充実感や達成感を味わうことができるような活動を取り入れていますか。	
子どもが、物事には良いことや悪いことがあることに気付いていくことができるよう援助していますか。	
子どもが、全身を介して直接自然と触れ合う体験をする機会を設けていますか。	
子どもが、自然に対する驚き、自然の美しさに感動する気持ちを抱かせるような援助をしていますか。	
子どもが、いろいろなものに触れながら、その性質や仕組みに興味を持てるよう配慮していますか。	
子どもの発達や理解力などに合わせた言葉を使うよう心がけていますか。	
子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉がけをするよう心がけていますか。	
子どもが、見たり、考えたりしたことなどを、自分なりに言葉で表現しようとするよう援助していますか。	
子どもが話しているときに、視線を合わせて、最後までゆったりと聞くよう心がけていますか。	
子どもの気持ちに寄り添いながら疑問や質問に答えたり、一緒に考えるよう心がけていますか。	
子どもに親しみを持って挨拶したり、子ども自ら挨拶しようとする機会や雰囲気を作るよう心がけていますか。	
絵本の読み聞かせなどを通して、言葉への興味や関心を育てるよう心がけていますか。	
子どもが、歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして、表現の楽しさに気付くよう配慮していますか。	

<p>子どもが、感じたことや考えたことなどを音や動きで表現できるよう工夫していますか。</p> <p>子どもの表現を受けとめ、共感し、子どもが表現することの楽しさを味わえるよう配慮していますか。</p> <p>子どもの表現を、子どもの内面の表れとして理解しようと努めていますか。</p> <p>一人ひとりの子どもの心身の発達や活動の実態を踏まえた保育を行うよう配慮していますか。</p> <p>一人ひとりの子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育を行うよう配慮していますか。</p> <p>一人ひとりの子どもが、主体的に活動し、意欲をもって活動できるよう配慮していますか。</p> <p>一人ひとりの乳児の発育や発達の状態をよく観察したうえで、常に体の状態を細かく観察していますか。</p> <p>乳児のしぐさや声を介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答していますか。</p> <p>乳児をあやしたり、抱いたりして、乳児が人に触れられて心地よいと感じる関わりをしていますか。</p> <p>1～2歳児の基本的な生活習慣の習得については、一人ひとりの子どもの発達過程に応じて行っていますか。</p> <p>1～2歳児が、楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを大切にしていますか。</p> <p>1～2歳児が、ゆったりとした気持ちで自分から便器に座ったり排泄したりできるよう配慮していますか。</p> <p>1～2歳児の衣類の着脱にあたって、丁寧にやり方を教え、自分でしようとする気持ちを尊重していますか。</p> <p>1～2歳児の子どもが意欲や自分でやりたいという気持ちを尊重しながら、適切な援助を行っていますか。</p> <p>3～5歳児が、生活に必要な習慣や態度を身に付け、適切な行動を選択できるよう配慮していますか。</p> <p>3～5歳児が、決まりがあることの大切さに気付き、自ら判断して行動できるよう配慮していますか。</p> <p>3～5歳児が、感じたことや想像したことなどを表現できるよう、様々な環境の設定に留意していますか。</p> <p>3～5歳児にとって、園の保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意していますか。</p> <p>障害のある子どもがいる場合、その子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立てていますか。</p> <p>障害のある子どもがいる場合、その子どもの保育に必要な知識を得るよう努めていますか。</p>	
--	--

第4 保育の計画及び評価

評価項目	肯定
<p>園の保育課程を理解していますか。</p> <p>指導計画を作成する際、保育課程に基づいて作成していますか。</p> <p>指導計画を作成する際、長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成していますか。</p> <p>指導計画を作成する際、一人ひとりの子どもの状態を踏まえ、個別的に作成していますか。</p> <p>指導計画に子どもの発達過程などを見通した具体的な「ねらい」と「内容」を設定していますか。</p> <p>指導計画に子どもの活動の展開に合わせた援助の仕方が具体的に書き込まれていますか。</p> <p>子どもの発達、興味、関心に基づいて指導計画を見直し、次の指導計画の作成に生かしていますか。</p> <p>自身の保育を振り返り、反省や評価を行い、次の指導計画の作成に生かしていますか。</p>	80%

第5-1 健康及び安全（子どもの健康支援）

評価項目	肯定
<p>子どもの日々の健康状態を把握し、一人ひとりの保育に生かしていますか。</p> <p>子どもの健康診断の結果などから、子どもの発育状況を把握し、一人ひとりの保育に生かしていますか。</p> <p>子どもの健康診断の結果などを、他の職員と共有していますか。</p> <p>感染症に対する園の方針などを理解していますか。</p> <p>感染症に関する知識を持ち、その症状や流行時期などを把握していますか。</p> <p>一人ひとりの子どもの予防接種歴や感染症の罹患歴を把握していますか。</p> <p>保育中に、感染症の疑いのある子どもを発見した際、他の子どもと接触することのないよう配慮していますか。</p> <p>保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を理解していますか。</p> <p>慢性疾患を持つ子どもがいる場合、その子どもの保育に必要な知識を得るよう努めていますか。</p> <p>午睡中、子どもの顔色や呼吸の状態をきめ細かく観察していますか。</p>	94%

第5-2 健康及び安全（環境及び衛生管理）

評 価 項 目	肯定
衛生管理に対する園の方針などを理解していますか。 保育に従事する者として、服装や身支度に配慮し、自らの健康と清潔を常に心がけていますか。 子どもが活動しやすいように、保育室内の温度や湿度に配慮していますか。 保育室、トイレなどを適宜清掃し、常に清潔を保つようにしていますか。 子どもが使用する玩具などを適宜消毒し、常に清潔を保つようにしていますか。 おむつの交換や嘔吐物などの処理の際、手洗いや使い捨て手袋の使用など、衛生に配慮していますか。	97%

第5-3 健康及び安全（事故防止及び安全管理）

評 価 項 目	肯定
事故防止や安全管理に対する園の方針などを理解していますか。 園内の設備、玩具、用具などを定期的に点検していますか。 日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険性を定期的に点検していますか。 事故が発生した場合の対応方法を理解していますか。 乳児に起こりやすい事故やその特徴を把握していますか。 1～2歳児に起こりやすい事故やその特徴を把握していますか。 災害に対する園の方針などを理解していますか。 災害が発生した場合の対応方法を理解していますか。	98%

第5-4 健康及び安全（食育の推進）

評 価 項 目	肯定
食事が保育の内容の一環であり、食育として位置づけられていることを理解していますか。 子どもが落ち着いて食事やおやつを楽しめるよう配慮していますか。 自身が感謝の気持ちを持って食事をするよう努めていますか。 食事の際、子ども同士が会話をするなど、楽しんで食べることができると雰囲気づくりに配慮していますか。 子どもが、食材や調理をする人への感謝の気持ちが育つよう配慮していますか。 食事の食べ具合などを、必要に応じて保護者に伝えていますか。	97%

第6 保護者に対する支援

評 価 項 目	肯定
送迎の際など、保護者と積極的に言葉を交わしていますか。 送迎の際の会話や連絡帳を活用して、保育の内容や子どもの様子などを保護者に伝えていますか。 保護者との交流の中で、子どもへの愛情と成長を喜ぶ気持ちを保護者と共有できるよう努めていますか。 保護者が子育ての悩みなどを安心して話せる存在となれるよう努めていますか。 保護者の子どもに対する虐待の早期発見に努めていますか。 保護者に不適切な養育や虐待などが疑われる場合の対応について理解していますか。	98%

第7 職員の資質向上（職員の研修等）

評 価 項 目	肯定
自身の人間性や倫理観が子どもに影響を与えることを自覚していますか。 園内で行われる研修や会議に積極的に参加していますか。 園外で行われる研修に自発的に参加していますか。 自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいますか。 自身の保育について、管理者からの意見や指導があった場合に、感情的にならず謙虚に受け止められますか。 職員会議などで決定した方針が、自身の意見と違うときも、それに従って気持ちよく協力していますか。 園の自己評価の結果を公表するよう努めなければならないとされていることを理解していますか。	91%

自己評価表（園用）

評価について

できている（やっている）。	3
できているが（やっているが）、十分でない。	2
できていない（やっていない）	1

第1 園の運営管理

評価項目	平均
職員の職務（役割や責任の範囲など）を明確にしているか。 職員の労働環境や意向を把握し、必要に応じて改善する仕組みが構築されているか。 職員の福利厚生や健康維持のための取組を行っているか。 個人情報の保護に配慮した園の運営を行っているか。 保育の提供に関する記録を整備しているか。 保育の提供等に関する話し合いの場を設けているか。 園にある各種マニュアルについて、検証・見直しを行っているか。 園の利用開始（保育の提供）に際し、保護者に重要事項説明書の交付及び説明を行っているか。 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしているか。	2.8

第2 保育の内容

評価項目	平均
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『生命の保持』に関する援助を適切に行っているか。 子どもの発達を理解し、保育指針に示す『情緒の安定』に関する援助を適切に行っているか。 子どもの発達を理解し、保育指針に示す『健康』を踏まえた保育を提供しているか。 子どもの発達を理解し、保育指針に示す『人間関係』を踏まえた保育を提供しているか。 子どもの発達を理解し、保育指針に示す『環境』を踏まえた保育を提供しているか。 子どもの発達を理解し、保育指針に示す『言葉』を踏まえた保育を提供しているか。 子どもの発達を理解し、保育指針に示す『表現』を踏まえた保育を提供しているか。 保育指針に示す『保育に関わる全般的な配慮事項』を踏まえた保育を提供しているか。 乳児に対し、保育指針に示す『乳児保育に関わる配慮事項』を踏まえた保育を提供しているか。 1～2歳児に対し、保育指針に示す『3歳未満児の保育に関わる配慮事項』を踏まえた保育を提供しているか。 3～5歳児に対し、保育指針に示す『3歳以上児の保育に関わる配慮事項』を踏まえた保育を提供しているか。 障害のある子どもに対し、保育指針にある『障害のある子どもの保育』を踏まえた保育を提供しているか。 子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、就学に向けて、保育指針にある『小学校との連携』を図っているか。	2.9

第3 保育の計画及び評価

評価項目	平均
園の保育理念や子どもの発達過程を踏まえた保育課程を編成しているか。 保育課程に基づき、指導計画を作成しているか。 保育の提供結果について評価し、指導計画の見直しを行っているか。 職員の自己評価を行っているか。 園の自己評価を行っているか。	2.8

第4-1 健康及び安全（子どもの健康支援）

評価項目	平均
子どもの健康状態、発育及び発達状態を把握しているか。 子どもの健康診断を行っているか。 感染症を予防するための取組を行っているか。	3.0

感染症発生時の体制や対応方法などを定めているか。	
園において与薬をする場合、与薬に対する対応方法などを定めているか。	

第4-2 健康及び安全（環境及び衛生管理）

評価項目	平均
子どもが心地よく落ち着いて過ごすことができる環境を整備しているか。 衛生管理のための取組を行っているか。	3.0

第4-3 健康及び安全（事故防止及び安全管理）

評価項目	平均
事故防止や安全管理のための取組を行っているか。 事故発生時の体制や対応方法などを定めているか。 災害に対する安全確保のための取組を行っているか。 災害時の体制や対応方法などを定めているか。	3.0

第4-4 健康及び安全（食育の推進）

評価項目	平均
子どもが食事を楽しむことができる環境を整えたり、工夫をしているか。 子どもにふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしているか。 食物アレルギーを持つ子どもなどに対して、適切な対応を行っているか。	2.7

第5 保護者に対する支援

評価項目	平均
保護者に対して、保育の内容や子どもの様子などを伝える取組を行っているか。 保護者との相互理解のための取組を行っているか。 虐待などの疑いがある子どもの早期発見のための取組を行っているか。 保護者からの相談・意見・苦情解決のための取組を行っているか。	2.8

第6-1 職員の資質向上（園長の責務）

評価項目	平均
園長自身が園の運営に必要な法令等を理解するための取組を行っているか。 園の運営に必要な関係機関などを把握しているか。 職員が園の運営に必要な法令等を理解するための機会を設けているか。 園の保育の質の向上のための取組に対し、指導力を発揮しているか。 事業の改善に向けた取組に指導力を発揮しているか。	2.6

第6-2 職員の資質向上（職員の研修等）

評価項目	平均
職員の資質向上に関する基本姿勢を明示しているか。 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されているか。 定期的に研修計画の評価・見直しを行っているか。	2.7

○保育実践における保育の気づきと振り返り

- ・自分自身のこれまでの経験や感性を大切に思い、今与えられている位置や立場に合わせて行動出来た
- ・園全体や他クラスの様子も知りたいと思い情報交換を繰り返すなど、どの職員とも多く話をした
- ・他クラス、他の人が気づかないことや、やりたがらない姿に触れた時も言葉にしたり自分から行動してみた
- ・元気な姿、明るい声、笑顔をできる限りたやさず、自ら楽しく仕事ができた
- ・どの子どもに対しても、同じように気持ちや言葉かけをそそいだ。
- ・多くの保護者との会話を大切に思った
- ・園内研修において発達や保険、又くじら保育園共有の研修も受けられたことがとても良かった
- ・身体づくりのために室内で毎日斜面のぼりや身体を使った遊びを取り組んだ
- ・子どもの健康や人間関係など日々怠ることなく配慮すべき事であると改めて気づいた
- ・幼児期の発達や自我の成長を受け止めながら個人に応じた指導計画と保育実践が必要なことが理解できた
- ・毎日のふり返りが大切で今後の保育に生かしていく
- ・就学する上で必要な力や支援について等、もっとくわしい勉強しておけばよかったと反省した
- ・各年齢個人に合わせて保育する中で多くの学びを受けた
- ・子どもの話すことに対してゆっくりと話すことができた

○今後の課題と取り組み

- ・自分自身の経験や積み重ねを大切に基本とするも、周りの声を聞いて周りに合わせて行きたい
- ・子どもの個性や生活環境を知り理解し、集団生活のリズムに合わせていけるよう工夫し向き合っていく。
- ・小さな言葉1つ1つや小さな変化も見つけていき、家庭と園との共有、意見交換など大切にしてい
- ・一日の限られている時間の中で保育者同士工夫し合って思ったことは言葉にして見守っていく
- ・苦手なことや、わからないことにぶつかった時はその場で調べたり体験を通して身につけるよう心かける
- ・子ども達、保護者、保育者とこちらが指導するのではなく同じ目線に立ってみる
- ・園内の研修（発達面、保険面など）は引き続き受ける機会をできるだけ多く持ってほしい
- ・目の前の子どもたちが心地よくたくさんすることに興味を持てるような保育内容を考えていく
- ・子どもの発達をしっかりと理解できるよう参考書などで知識を深める必要がある。
- ・感染症などへの理解を深めて子ども達が健康に過ごせる環境を作れるようにしたい
- ・指導計画作成について学ぶ
- ・子どもの気持ちに寄り添い良いところをたくさん見つけ誉める。
- ・保護者に対し、家庭と園とが一体となって子供を育てて行くということを理解してもらう必要がある
- ・日々の保育の中で保育理念と自分の保育を照らし合わせて改善していきたい

○今後の目標（園全体で話し合い、目標を決める）

- ・令和5年度には本格的にICT化を進め、情報を有効的に共有する。
- ・園目標を再度全職員、子ども達と一緒に知り言葉にして理解を深める。
- ・行事への取り組みを積極的に早める
- ・自主性が出せるような職場の雰囲気作りを行う
- ・専門的な発達面、保健面において、より専門的な研修や実践ができる機会を増やす
- ・コロナ禍ではあるが、異年齢との交流の機会を増やし子ども達の関わりを広げられる場を設けていきたい。
- ・職員同士がもっと連携をとり助け合える環境を作る
- ・全職員が同じ保育の視点で子どもと向き合えるようにしていく
- ・小学校との連携を図る。